

特集 2

桃太郎
山車復元



復活した桃太郎山車の人形

南新町

「桃太郎山車」が甦った!

山車復活で宇都宮のにぎわい創出

明治時代に作られた、お祭りの山車が、約100年の時を越えて再び私たちの前にあらわれました! 宇都宮市南新町下組自治会の公民館に一部が保管されていた「桃太郎山車」を、「昨年」火焔太鼓山車」を復活させたメンバーが甦らせました。



写真上/残っていた車輪を修復
写真中/車輪に塗装を施す
写真下/美人完成した車輪



復活した桃太郎山車の勇姿



大正2年の菊水祭巡行写真

明治生まれの山車を復活させよう!

まずは写真を見てください(写真①)。これは大正2(1913)年、宇都宮市荒山神社の菊水祭の巡行の風景です。左奥に高く見える山車が、南新町の「桃太郎山車」です。手前には、桃太郎にちなみ「犬」「猿」「雉」の扮装をした人たちも見えます。



復活した人形の頭部(左)
桃太郎山車頭部
(漆喰彫刻)(右)

桃太郎山車は、桃太郎の人形を心柱の最上部に飾りつけた山車で、明治の初期に南新町(現 新町)で建造されたものです。宇都宮を代表する菊水祭の巡行に活躍しました。記録によれば、写真が撮られた大正2年までは使われていましたが、その後は収納されて出番の無いまま、長い時を過して

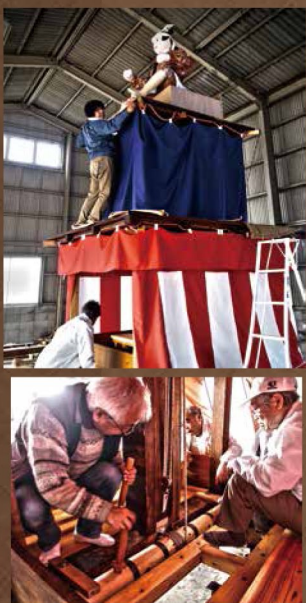
桃太郎山車

変形したりして、単純に組み合わせただけではまらない。そこを全員で知恵を出し合い、試行錯誤を繰り返しながら、組み立てていきました」と吾輩を話します。

いよいよ完成間近、桃太郎山車!

2月14日(日)、ついに修復中の桃太郎山車の全体が宇都宮市のJAうつのみや旧富屋支所の倉庫で一般公開されました。当日は午前中から作業が行われ、躯体の上部に人形を設置。さらに幕など飾りを取り付ける作業に、関係者一同大忙しの中で、午後の公開を迎えました。

新聞やテレビの取材も入り、藤原副会長や理事で山車研究家の池田貞夫さん、事務局長の田巻秀樹さんなども説明に追われま



写真上/装飾を施しほぼ完成
写真下/心柱には上下に伸縮する構造を工夫

一昨年、新石町の火焔太鼓山車を復活させた「宮のにぎわい 山車復活プロジェクト」(檜山幸雄会長)では、まだ火焔太鼓山車に取り組んでいた平成25(2013)年11月に、この桃太郎山車を南新町下組自治会より譲り受けました。その時点で残っていたのは車輪や躯体、装飾の一部など。人形は脚の一部分だけしかありませんでした。

メンバーは、復活のための手がかりを探しましたが、巡行写真しか見つかりませんでした。これだけを手がかりとした、第2の復活プロジェクトがスタートしたのです。

その後、頭部写真が発見(写真②)され、人形の命ともいえる顔立ちが明らかになりました。これらの資料を基にスケッチが描かれ、本格的な復活作業が行われました。

人形は埼玉県の人形業者に制作を依頼。白黒写真とスケッチだけだった桃太郎が、みごとに甦りました。躯体は、しっかりと作られている部分を使いつつ、必要な部材を新たに作り、組み立てました。車輪も、長い年月で痛んでいたものを修復して使用しました。

修復の先頭に立つて汗をかいた、建築士の藤原史副会長は「長い年月の間に部材が



躯体組み立ての様子

す。集まった方々への説明もいねいに行われ、盛大な拍手の中、この日の作業現場公開は無事に終了しました。

桃太郎山車は、今年秋の菊水祭で巡行する予定となっています。犬、猿、雉の扮装も新たに作り、盛大な山車巡行で「宮のにぎわい」を演出することになります。

また、山車を保管していた南新町下組自治会のある西原地区で、5月8日(日)に完成お披露目を開く予定になっています。作業現場公開のあいさつで、藤原副会長は「作業をして、宇都宮市の伝統文化のすばらしさを実感しました。若い人たちにも、このすばらしさを感じて欲しい」と熱く語りました。

山車復活プロジェクトでは、復活のための募金を呼び掛けている。詳しくは、左記にお問い合わせください。

問合せ

宮のにぎわい
山車復活プロジェクト
事務局 檜山 昌彦
宇都宮市伝馬町45 うさぎや内
☎028-634-6810